

子牛の下痢治療のポイント

マネージメント情報では大分ご無沙汰してしまいました、松下です。

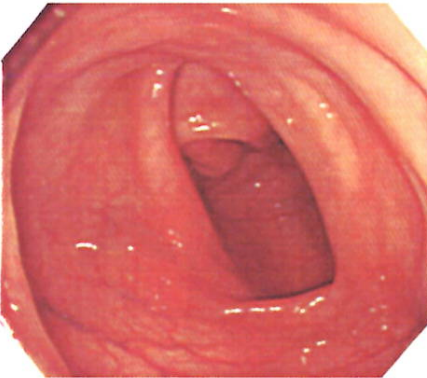
今回は、先日の THMS セミナーでお話させて頂いた子牛の下痢治療についてです。

子牛はだいたい1週齢前後で下痢をします。

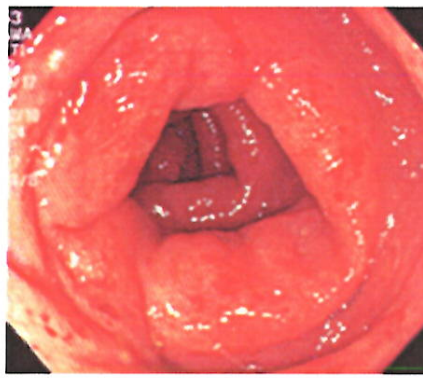
その原因はほとんどがロタウイルスやコロナウイルス、クリプトスポリジウムといったものですが、症状からは見分けがつかず。そしてこれらのウイルスや原虫には抗生剤は効かないので、直接的には効果はありません。

そこで、消炎剤を注射しましょう！というのが今回の提案です。

☞ 下痢の時、腸管ではなにがおきているのか？



《正常》



《腸炎》

これは人の腸管の内視鏡画像ですが、右の写真は『腸炎』という名前の通り、ひどい炎症を起こしているのがわかります。このような状態では、腸管の水や電解質、栄養素の吸収能は低下してしまい、さらなる脱水、下痢へとつながります。

☞ 消炎鎮痛剤『メタカム』

様々な消炎鎮痛剤がありますが、それぞれ副作用や作用時間などに特徴があります。

今回子牛の下痢治療におすすめするのは、『メタカム』です。

消化管障害などの副作用が少ない！

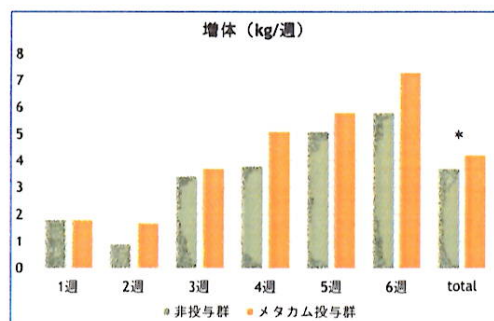
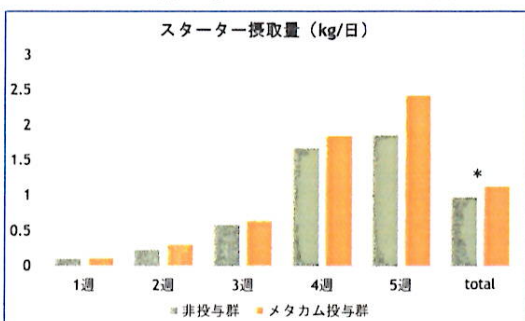
作用時間が長く、1回の投与で2日ほど効果が期待できる！

という良い点があります。



☞ ある研究では…

メタカム 0.5mg/kg 皮下注射 下痢開始時に投与



メタカム投与群では

- ◇ 脱水や便の状態の改善
- ◇ ミルクとスターターの摂取量増加
- ◇ 増体の改善
- ◇ 活発な時間が多い
- ◇ 不快さをあらわす行動が少ない

などの良い結果が得られ、『**下痢開始時のメタカムの投与は、症状を軽減し、子牛の回復を向上させる**』と示されています。ここで重要なのは、下痢の**開始時**に投与する！ということで、早期に治療を行い、下痢を重症化させないということです。

☞ トータルハードカーフサービスでは

毎日の哺乳・除糞時に便の状態をチェック！

- ハッチ内に落ちている便の状態
- 便が見当たらない
- ニオイが臭い
- お尻まわりをチェック などなど…

下痢を発見したら、1日目と3日目にメタカムを2ml投与しています。

☞ **経口電解質の給与**:断乳は12時間以内に！

カーフサービスでの経口電解質の給与は、下痢を発見した1日目の朝と昼のみで、夕方からはミルクの給与を2Lにして再開するようにしています。

症状に応じて増減はありますが、基本的に断乳はしません。

ミルクの給与は12時間以内に再開するべきで、断乳しても下痢の重症度や期間に差はないという報告がたくさんあります。経口電解質のみでは子牛の1日に必要な維持エネルギーを供給することができず、下痢からの回復を遅らせる危険性があります。

下痢は早期に発見して、早期に対処するというのが最も重要なことです。

子牛は1週齢前後で**必ず**下痢をすと思って、注意してみてください。

季節の変わり目は、人も子牛も体調を崩しがちです。

暖かくなってきたな〜と気を抜かず…がんばりましょう！！

松下裕香